

平和で豊かな沖縄県を目指す情報誌

無料

ご自由にお持ち
帰り下さい

沖縄協会だより

2025.1

No.34



鎮西直秀 作

守禮の月 号数：F100

鎮西直秀 昭和28年高知県生

画歴：東京芸術大学卒。第4回現代洋画精鋭選抜展金賞、第10回同記念大展特別奨励賞、同展審査員
競作百人金賞、同展審査員(1993～98)。パリ・サンターヌ画廊で個展、銀座美術館で個展、他個
展多数。欧米、アフリカ、アジア各国、ソ連、オーストラリア、タヒチ、中国、カナダ、日本各地等取材。

制作意図：澄んだ空気と抜けるような青い空と真白い雲。首里城跡の丘陵から見た沖縄の海は、初めて
南国を訪れた僕に、幻のように美しく輝く。黄昏の守禮の門を見たいと心を躍らせて待つうち
に、いつか蚊の群がる時刻になったが、陽はいつこうに沈まない。やがて黄昏が僕たちを染め
た時、沖縄の心を象徴するかのよう、門はその姿をかえていた。

額サイズ：縦×横×厚【182×150×8cm】

(昭和53年2月3日寄贈)



沖縄協会は、沖縄が本土に復帰するまでの間、各種の援護活動を行った特殊法人南方同胞援護会(昭和31年～47年5月)の後を受けて、昭和47年9月20日に設置された内閣府所管の公益法人です。新たに設立した財団法人沖縄協会は、南方同胞援護会の実績と経験を活用して、沖縄の振興施策に積極的に協力し、平和で豊かな沖縄県の建設に寄与してまいりました。平成23年(2011)4月1日、沖縄協会は内閣総理大臣より公益財団法人として認定を受けて「公益財団法人沖縄協会」として新たな一歩を踏み出しました。これからも、沖縄県の健全な発展と幸福な社会形成に役立つ事業を行いながら、沖縄平和祈念堂を管理運営することで、平和で豊かな沖縄県の建設に貢献していきます。

公益財団法人 沖縄協会

第46回

沖縄研究奨励賞受賞者決定

沖縄協会では、沖縄の地域振興、学術振興に貢献する人材を発掘し、育成するため、昭和54年(1979年)から沖縄研究奨励賞を設け、沖縄を対象とした将来性豊かな優れた研究(自然科学・人文科学・社会科学)を行っている50才以下の新進研究者又はグループに対し、その年ごとに3件以内に贈呈している。本年度で第46回を重ね、全国から11件の推薦応募が寄せられ、選考委員会(牧野浩隆委員長)において厳正・慎重な選考を重ねた結果、3件の受賞者を決定した。

自然科学部門



石井 貴広

〈研究題目〉

「琉球列島の海洋生物資源に着目した新規生物活性物質の探索研究」

〈所属〉琉球大学農学部・教授
〈年齢〉46歳

人文科学部門



宮城 弘樹

〈研究題目〉

「琉球王国時代の考古学研究」

〈所属〉沖縄国際大学総合文化学部・教授
〈年齢〉49歳

社会科学部門



吉川 麻衣子

〈研究題目〉

「沖縄戦を生きぬいた人びとの体験と想いの継承に関する研究」

〈所属〉沖縄大学人文学部・教授
〈年齢〉48歳

※年齢は2024年7月15日応募時

琉球列島の海洋生物資源に着目した新規生物活性物質の探索研究

石井 貴広

受賞理由

例年2件の受賞を続けてきた自然科学部門は、今回は、1件となつたため、他の優れた研究に残念な思いであるが、秀逸の1件を紹介する。

これまでの沖縄における自然資源の研究開発は、地上部の活用に限られ、ある意味では出尽くした感がある。本研究は、これまでの常識を超え海洋資源に着目し、新規生物活性物質の探究を行ない、実用化の道を開いている。

未利用生物からの新規二次代謝産物の探索研究では、近年沖縄本島近海の浅海で採取された軟体サンゴから新しい炭素骨格を有する二次代謝産物を取得し、また最近では与勝の島々で採取した海洋生物から種々の新規の二次代謝物を発見し、その成果を国際学術誌で発表している。

一方、農作物あるいは魚介類の収穫量向上に必要な薬剤の中には、自然界で分解されにくく、生物体に悪影響を与えるものもある。本研究では、薬剤シイズとして元々自然に存在する天然物を利用する方法を考案し、この観点からも沖縄近海に棲息する未利用生物資源に着目し、津堅島で採取した紅藻ソゾから、貯穀害虫のコクゾウムシに対して殺虫あるいは忌避活性を

示す成分(セスキテルペン類)を発見し国際学術誌に報告している。加えて、これらの類縁化合物は難防除の樹木害虫であるカミキリムシにも有効であることをも見出している。

また、漁業に被害をもたらすイガイ、水産養殖場で問題になっている寄生虫のハダムシに対する防除剤開発にも取り組み、糸満市で採取した紅藻ホンバナミノハナからはハダムシの生育を阻害する成分を取得し、那覇で採集した軟体サンゴからはイガイに対して付着阻害効果のある化合物を単離・同定しており、これらの化合物は新薬のシイズとして期待される。

その他に、天然物質を活用した商品開発でも、シークアサー由来の「フビレチン」に新型コロナウイルスに対する抗ウイルス作用があることも突き止め、その機能性の次元を高めている。

この成果の期待されることは、沖縄の海域を水産資源として活用する従来の常識を超え、海洋全域をスタートアップ的な自然資源に変える道筋を示すもので、学術的にも極めて優れた研究である。

【比嘉照夫 選考委員】

琉球王国時代の考古学研究

宮城 弘樹

受賞理由

宮城弘樹氏の研究は、琉球列

島の①先史時代の終末期、②ブスフ時代、③琉球王国時代に関する考古学研究に整理される。①の先史時代の終末期段階の研究では、先史時代後半段階の在出土器と外来の滑石製石鍋などが遺跡における分布の偏りやセット関係から集落間格差を導き出し、狩猟採集民から農耕生産民へと変質していく背景と過程を明らかにしている。

②のブスフ時代に関する研究では、今帰仁城跡をモデルに城内・城下の構造分析によって求心的階層社会と、竹富島でみられる集落の並立的あるいは相対的な在り方から均衡社会というブスフ時代における2つの社会構造を明らかにした。また、ブスフ社会の経済に関わる出土銭貨に関して出土状況を集成整理した上で、時間的な推移を明らかにし、社会の貨幣認識の在り方に地域や時代による特徴を考察した。

③の琉球王国時代については、葬墓制にかかわる副葬品と蔵骨器、その他の分析研究がある。副葬品については指輪の型式やデザインの特徴を整理し、琉球で1700年頃から登場する背景やその後の推移を明らかにした。また、蔵骨器に関しては資料の型式化と厨子に書かれた銘書のデータベース化を押し進め詳細な編年基準を提示した。これは先行の上江洲均の編年研究を大いに継承発展させたものとなっている。その他の部分では厨子に残された結髪の復元的研究、さらに厨子甕等に

記載される死去年の件数から、近世に記録される飢饉、災害、近代統計との比較を通して、死亡危機と考えられるイベントのあった年代との整合・不整合について考察するなど、より実証的な研究に挑んでいる。

宮城氏は、この他にも考古学的な接近が可能な遺跡、遺物に関心を広げ、精力的かつ意欲的に研究に取り組んでおり、今後の活躍を大いに期待される。

【上原 静 選考委員】

沖縄戦を生きぬいた人びとの体験と想いの継承に関する研究

吉川 麻衣子

受賞理由

風化が進むアジア太平洋戦争を巡る体験と記憶は、戦争体験者の直接的な証言が聞き取れなくなる「ポスト体験時代」へ入りつつある。沖縄戦から80年が経過しようとしているいま、沖縄戦の体験者の証言をいかに受け取り、それを将来世代に引き継いでいくかは現代沖縄社会の大きな課題である。

吉川氏は臨床心理学の専門家であり、その専門性に基づき、容易には語りえない熾烈な沖縄戦の体験者から何十年もの時間をかけてその体験と想いを聞き出してきた。これは沖縄戦の継承という現代沖縄社会の課題の達成に向けた地道で膨大な努力に基づく極めて重要な

貢献である。

戦争体験者の記憶の開示と継承の行動に深く寄り添い支援しながら、同時に、語られた記憶を未来に橋渡しするための活動に携わってきた氏の研究は、単なる臨床活動を超えたアクションリサーチという社会調査法とも共通点がみられるという点で、臨床心理学を軸足としながら社会学や社会史の分野とも共通するところがある。

特筆に値するのは、18年間の長期にわたり500名を超える人々に寄り添って地域心理臨床「沖縄戦体験を語り合う場」を開催し、容易には語り得ない極めて熾烈な沖縄戦の体験を何十年もの時間をかけて互いに「語り合う」ことを実現した点である。

そして「語り合う」を通じて自らの戦争体験の真実を語るようになった経緯が、①戦後の心情、②グループに参加するが語らなかつた語れなかつたときの心情、③語るに至った心情やその契機、④語る／語り合うことによる心情の変化の4段階を経たものであることが明らかにされている。体験者にとって戦争体験を語る事が如何に困難なものであったかを示すものであり、戦争体験の継承に当たっては体験そのものの継承に加え、体験者それぞれが語ることがいかに困難なものであったかを併せて継承していくことが重要であることを示唆している。吉川氏の研究の功績と言える。

【櫻井 國俊 選考委員】

沖縄平和祈念堂トピックス

★沖縄平和祈念像「浄め」

12月11日、沖縄平和祈念堂恒例の沖縄平和祈念像「浄め」が行われた。この浄めは、毎年大晦日の夜から元旦にかけて開催する「摩文仁・火と鐘のまつり」と新年を迎えるに当たって行われるもの。今回は沖縄バス(株)・東陽バス(株)のバスガイド指導員2人と沖縄バスで職場体験を行っている那覇市立那覇中学校の生徒4人、沖縄県工芸振興センターから10人、浦添市美術館職員2人、平和祈念像の制作に従事した糸数政次さん(当協会理事・浦添市美術館長)に職員4人とあわせ23人で行った。参加者と職員は戦没者慰霊と世界の恒久平和を祈り、高さ約12メートル・幅約8メートルの平和祈念像の埃を払い浄めた。また、各団体から奉納された折り鶴や平和宣言などの整理を行った。糸数さんには、作業とあわせて平和祈念像上部の表面に塗られた漆の状態も確認してもらった。



沖縄平和祈念像「浄め」の様子

★47回「摩文仁・火と鐘のまつり」

12月31日から2025年1月1日にかけて第47回「摩文仁・火と鐘のまつり」を開催した。この行事は、1978年の平和祈念堂開堂の年より実施している。この数年は「コナホや堂宇の整備などで中断、縮小を余儀なくされたが、5年ぶりの本格開催となった。当日は約480人が参加し、去りゆく年をふりかえり、新しい年の世界平和を誓う



祈りの炎

た。まつりのクライマックスでは、参加者が持ったいまつの灯りで幾つもの円陣を描き、午前0時を前にして清らかな祈りの歌「沖縄平和祈念像讃歌」が献唱された。そして、新年の訪れとともに平和の鐘が鳴り響き、同時に代表7人が円陣中央の聖火台に平和の火を灯し、勢いよく折りの炎が燃え上がった。続けて、参加者全員で新年を祝う歌曲を合唱し、すがすがしい空間を共有した火と鐘の音が織り成す祭典を終えた。



★平和の礎・平和の広場に灯された「平和の火」

沖縄県が糸満市摩文仁の平和祈念公園に設置した平和の礎・平和の広場中央に「平和の火」が灯されている。

この「平和の火」は、沖縄戦最初の上陸地である座間味村阿嘉島において採取した火と被爆地広島市の「平和の灯」、長崎市の「誓いの火」から分けていただいた火を合火し、1991年から灯し続けた火を、1995年6月23日の「慰霊の日」に平和の広場へ移し灯されたもの。当協会ではその「平和の火」を主催する慰霊・平和祈念行事の際に分けてもらい、沖縄全戦没者追悼式前夜祭では「鎮魂の火」、摩文仁・火と鐘のまつりにおいては「聖なる火」の種火に使用させていただいている。

※「平和の火」紹介文は原宮平和祈念公園ホームページより



平和の礎「平和の灯」



協会関係事業他

募集案内など

★第32回金城芳子基金募集中

【金城芳子基金】は、沖縄女性の地位向上のために献身された金城芳子さん（1902-1991）の強い意志により、そのご遺族によって1992年に当協会に設置され、沖縄女性のため、社会的に意義のある活動や調査研究を行う個人及び団体グループに助成している。

第32回までに32の個人・団体に助成を実施した。第33の応募締切は2025年3月31日。当日消印有効。

★2025年度沖縄青少年勉学

支援生募集

2025年度沖縄青少年勉学支援生の応募受付を4月1日から開始します。支援金額は24万円（年額です。締め切りは6月30日まで（当日消印有効）。勉学支援を希望される方は、本会ホームページの「事業内容」から「沖縄青少年勉学支援制度」へ進み、申請書をダウンロードしてA3サイズでプリントアウトして下さい。必要事項を記入のうえ必要書類2点（在学証明書・在職証明書を添付して左記の住所へ郵送して下さい。7月に行われる審査委員会において、当該年度の勉学支援生を決定いたします。

【申請書の送付先】

T10310001

東京都中央区日本橋小伝馬町17-6

シエスタ日本橋 2001

（公財）沖縄協会 沖縄青少年勉学支援担当

★沖縄平和祈念堂改修工事に

伴ってご寄付のお願い

開堂から46年を迎えた沖縄平和祈念堂では、現在、経年劣化による改修工事を頻繁に実施しております。今後、さらに工事の必要が考えられますので、多くの皆様にご経費に対するご寄付を賜りますようお願い申し上げます。ご連絡いただきましたら、ゆうちょ銀行専用の振込票を送付させていただきます。

公益財団法人 沖縄協会

【電話番号】03-6231-1433

【FAX】03-6231-1436



syncable(シンカブル)

感染防止対策 徹底宣言

沖縄平和祈念堂では、沖縄県が作成した「新型コロナウイルス感染症感染防止対策チェックシート」を実施し、「感染防止徹底対策宣言ステッカー」を取得しています。

沖縄平和祈念堂では、沖縄県が作成した「新型コロナウイルス感染症感染防止対策チェックシート」を実施し、「感染防止徹底対策宣言ステッカー」を取得しています。



沖縄を描く：沖縄をモチーフにした作品 9

花風 西村計雄 作

西村計雄 明治42年 北海道生

画歴：東京美術学校卒、藤島武二に師事。1943年文展（現・日展）特選。戦後早稲田中学校と高等学校の教師を勤め、51年に42歳で単身渡仏する。ピカソの画商カーンワイラー氏との出会いを契機に、53年よりパリを中心にヨーロッパ各地で個展を開催。その作品はフランス国立近代美術館やパリ市美術館に買い上げとなった。フランス政府より芸術文化勲章、パリ・クリティック賞、フランス政府よりユーマン・プログレ勲章、勲三等瑞宝章、他受賞多数。北海道岩内郡共和町名誉町民、共和町立西村計雄記念美術館開館。2000年12月4日91歳で没。

額サイズ：M3 縦×横×厚【43×32×4.6cm】

